

教員紹介

今回は、今年度着任された基幹研究院人間科学系准教授の石丸 徑一郎先生をご紹介します。石丸先生の現在のご所属は、大学院では人間文化創成科学研究科人間発達科学専攻発達臨床心理学コース、学部では生活科学部人間生活学科発達臨床心理学講座です。



Ishimaru Keiichiro
石丸 徑一郎

性や性役割の多様性から 価値を生み出す

Q まず始めにご出身、ご経歴 などについて教えてください。

里帰り出産のため横浜市で生まれましたが、0歳から高校卒業まで長崎市で育ちました。東京大学文科3類、教育学部教育心理学コースを卒業、その後、東京大学大学院の修士課程・博士課程では教育心理学・臨床心理学コースに在籍し、修了しました。博士号取得後は、国立精神・神経センター(当時)の研究者として、トラウマ・PTSD(post-traumatic stress disorder; 心的外傷後ストレス障害)の研究室に3年間在籍しました。そして、学術振興会特別研究員として東京大学に2年間在籍し、その後、出身の東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コースの講師として着任し、5年間、研究・教育・臨床を行っていました。東大の方は任期満了となり、今年4月から本学に着任しました。資格としては大学院生の時に臨床心理士を取得、また最近保育士も取得しました。

Q 先生のご専門は 何ですか？

LGBT(レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー)と呼ばれるような性的マイノリティの人々について研究と臨床をしています。大学院生の時は、同性愛・両性愛である人たちの他者から受容されている感覚と自尊感情について研究していました。現在は、性同一性障害をもつ人たちの性別違和の強さを測定するツールを作ったり、LGBTの人々のQOL(quality of life; 生活の質)向上に役立つような認知行動療法的アプローチの開発に関心があります。また、大学で働いているので、大学とLGBTのテーマにも関心があり、LGBTインクルーシブな大学について、また大学の学生・教職員・卒業生によるLGBTコミュニティの形成や役割について検討したいと考えています。LGBTのテーマだけでなく、人間の性や性別に

まつわることに広く関心があります。例えば性犯罪の加害者側、被害者側の両方に関して、それからセックスレスなど性機能不全に関するセックス・セラピーに関して、臨床で関わったことがあります。その他、性感染症・HIV、カップルや集団における性役割行動や分担、性に関する規範意識、配偶者選択行動の進化生物学的側面、妊娠・出産・月経随伴症状・避妊・中絶・不妊・生殖医療などにまつわる心理的諸問題に関心を持っています。

Q なぜそのような研究をする ようになったのか教えてください。

もともとは、家事にあまり関心や適性があると思えない母親が、女だからという理由で専業主婦をやっていることに疑問を持ち、学校で男子グループのノリについて行きづらい感覚があったりして、性別や性役割に興味を持ちました。卒業論文では、男性は外で仕事、女性は家で家事育児という性別役割分業に対して賛成・反対という態度の個人差がどのように生じるのかを大学生を対象に調べました。その結果、母親の就労形態の違いや、出身高校が共学か別学かによって態度に差が見られました。その頃にはLGBTという言葉は日本では使われていませんでしたが、知られざる世界で存在している人々がかなりたくさんいることを知り、研究するべきだろうと思い、大学院からはこれをテーマにしました。人間の性に関するテーマは、心理学だけでなく、多くの他の学問領域や、人間のあらゆる生活や活動に関わってくるので、本当に面白いと思っています。

Q 女子大学の存在意義を指摘する声も聞かれますが、先生は女子大学についてどう うお考えをお持ちですか？

身体は男性だが女性アイデンティティを持ち、現

在性別移行中の人の入学をどうするかなど、少数の個別ケースについては対応が必要になってくると思います。一方で、日本は男女賃金格差が深刻で、ジェンダーギャップ指数が144カ国中111位(2016年)と先進国としては異例の低位にあります。女子大学として女性をエンパワーすることは、今の日本ではまだ必要だと考えています。20歳前後の年代で男女共学だと、男子から疎まれないように、過度に女らしく振る舞ったり、男子に勝たないようにしたり、リーダーシップを男子に任せたりといった行動が起きる可能性があります。女子大学であればそれが防げると思います。

Q お茶大に対してどんな イメージを持ちましたか？

着任前はお茶大に関わるものがあまりなかったのですが、知っている数人の卒業生から、真面目で協調性が高いイメージを持っていました。着任後も、イメージは大きくは変わりませんが、授業では問いかけても反応は薄いのですが、コメントシートを書いてもらうとよく聞いていることがわかります。前任校の東大と比べると、独創的で型破りな人が少なかったり、批判精神が薄かったりするように思いますが、よく言えば素直で協調性が高いのだと思います。

Q お茶大生へ向けての メッセージをお願いします。

自分の感覚を大切に、周囲に合わせすぎずに、自分の道を見つけていかれたらよいと思います。そのためには、世の中のいろんなことや人々の考え方に触れることが大事だと思います。学内の先生たちはもちろん、学外でもいろいろな機会を見つけて出かけていくのがおすすめです。お茶大は小規模な大学なので、先生たちからお話を聞きやすいと思います。また都心のよい場所に立地しているので、東京で開催される講演会、シンポジウム、イベントなど多くの機会に参加することが可能です。将来役に立つかどうかにとらわれず、まじめなものからやわらかいものまで、驚くほど多様な世の中をぜひ体験的に学び取ってください。

文責：基幹研究院自然科学系教授 赤松 利恵